

関係人口モデル団体としての地域事例発表

「横瀬クラス」事業

チャレンジとワクワクで

人と人がつながり感じるプロジェクト



1. 地域の概要

- 埼玉県西部、秩父盆地の一角にあり、山あいのどこにでもあるような中山間地域。人口8,200人（職員数：約90人）、高齢化率30.5%の典型的な地方にある小さな町。
- 東京都内から電車で最短73分という日帰り圏内の距離にある。
- 町の83%が森林。可住地面積約10%に役場などの公共施設、鉄道駅などがコンパクトに集約。商店街はなく、隣接する秩父市に商圏は依存。
- 町のシンボル武甲山から採掘する石灰などのセメント関連産業といちご、ぶどうなどの観光果樹農園が主要な産業。また、会社勤め世帯の割合も多い。

2.事業の背景・課題

●地域の現状・解決したい課題

- もれなく人口減少が進み、特に少子化及び生産人口の転出など、若者の減少により町の賑わいが感じられず、地域経済の縮小によって町の活力が低下している。
- 東京圏から電車で最短73分という距離でありながら、自然豊かで四季折々の美しい景観やいちごやぶどうの味覚狩りなど、観光客を交流人口としてみた場合は、増加傾向にある。しかしながら逆に近距離に位置していることから日帰り観光客が多く、滞在時間が短い、平日の観光客が少ないなど、地域経済を好循環まで引き上げるまでにはほど遠い。
- そのような状況から、この町の魅力が失われることなく、賑わいや地域経済の維持、さらには住民が多様な幸せを感じ、住み続けたい地域を目指す。

●地域課題の解決・改善にあたり、関係人口に期待すること

- **小さな町の限られた資源**で地域経済にインパクトを与えられるほどの新たな観光施設の開発による**交流人口の大幅な増加は見込めず**、さらに若者をはじめとする生産人口の転出が多いことから、**容易に定住促進が進むものではない**と認識している。
- そのような中、当町の官民連携プラットフォーム「通称：よこらぼ」の取り組みにより、関係人口になると思われる人が増加傾向にあり、若干ではあるものの町の賑わいなどにも変化が生じていることから、さらに住民を巻き込み横瀬町らしい関係人口を創出したい。

2.事業の背景・課題

●横瀬町らしい関係人口を生み出す、官民連携プラットフォーム「通称：よこらぼ」

- 知名度の低い町には移住先、関係人口（当初は想定なし）先として、候補に上がりにくい。
- 交通網が脆弱な山間地域に工場等の企業を誘致することが限りなく低い。
- 既存の資源（ヒト、モノ、カネ、情報）が足りていない（使い方を含む）。

↓↓↓↓↓（解決策として）↓↓↓↓↓

- 地域課題を解決したいチャレンジャー（民間企業等）を募集、応募制として審査会を開催。
- チャレンジャーは、民間の企業、団体、個人など、どんな枠組みでも応募可能。
- チャレンジャー側のやりたいことが町のメリットに繋がれば、どんな事業・プロジェクトでも応募可能。

↓↓↓↓↓（結果として 2020年12月18日現在）↓↓↓↓↓

- 結果、約4年間で150近い提案、82のプロジェクトが始動。
- 特徴として、町からの予算などの財政的な支援を求めることよりも、**行政側と一緒に伴走することを求められるチャレンジが多く、より民間側と職員・住民が近い立ち位置になりやすい。**



「よこらぼ」提案から生まれ、住民と横瀬を応援してくれる方たち（関係人口）とボランティアで空家を利活用した「オープン&フレンドリースペース エリア898：はちきゅうはち」

3. 事業の全体像（関係人口施策取組時点2019年度の想定）

● 地域の理想の姿

- 概ね5年後、拠点「エリア898」を中心に様々な自主イベントが開催され、関係人口の方が持つ多様なスキルを提供してもらい、誰でもワクワクしながら「つながり」を感じることができる地域にすることで、学びの町として、子育て世帯が増加する。

● 地域課題解決のプロセス

(2019~)

「エリア898」運営開始、官民連携「よこらぼ」を活用し、学びを中心に「898」でイベントを開催。



(~2024) 「898」で行われる様々な学びのイベントをWebに掲載し、情報を蓄積させ、誰でもこの町でチャレンジできることを発信。関係人口を継続的に創出・拡大。



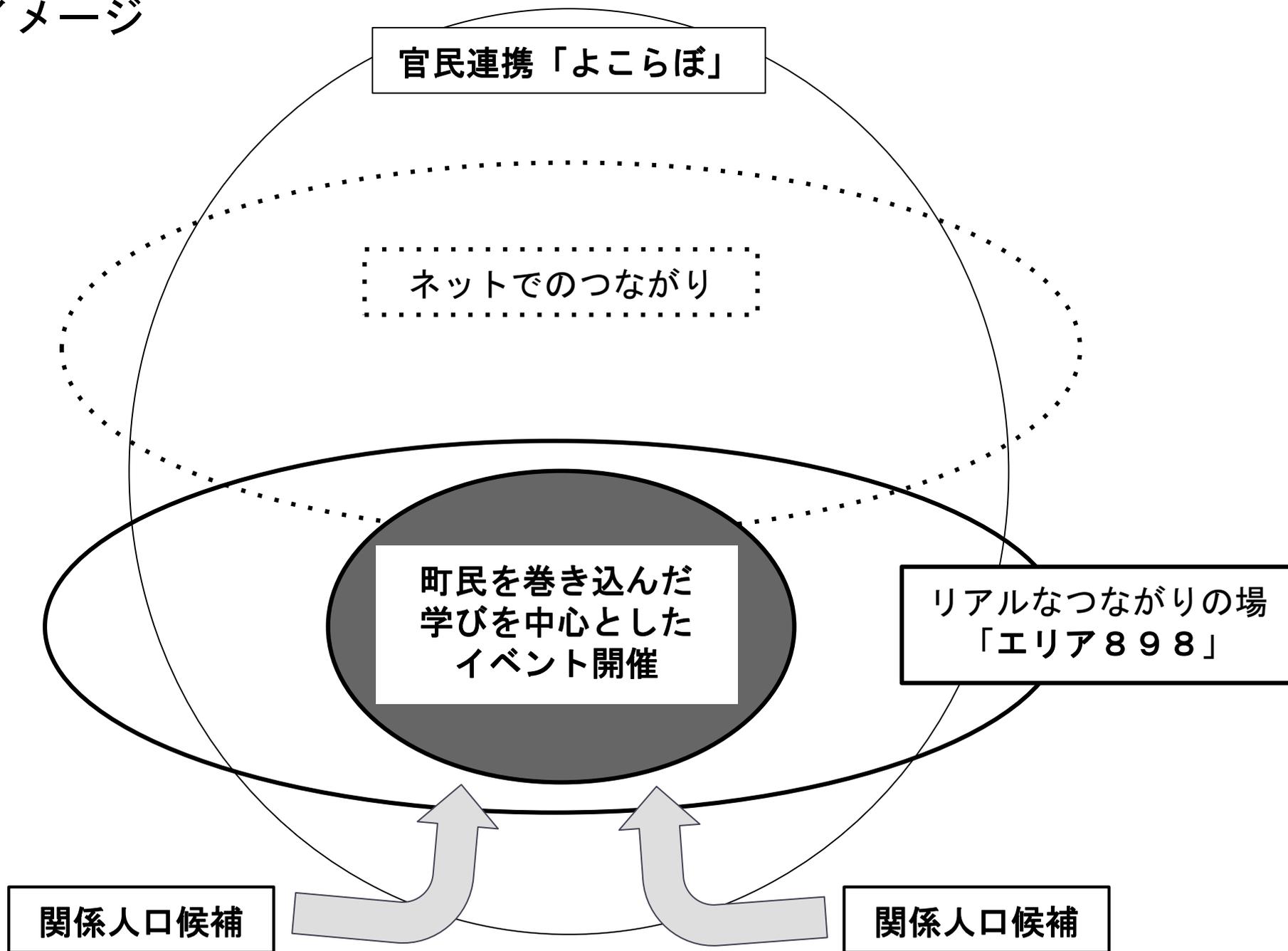
(2025頃)

「898」で様々な学びイベントが継続的に開催。多様な学びがある町として子育て世帯の増加（課題解決）

● 事業の目的・ねらい

- ターゲットである関係人口候補者は当町の官民連携事業の採択者であり自らのスキルなどを活かして、学びを中心としたイベントを開催するなど地域住民と積極的に振れあう。
- 地域とつながりたい関係人口候補者は地域住民との触れあいの中で、町・住民に愛着をもってもらう。
- 「エリア898」を活動の拠点としたメンバーで構成した「チーム898」が企画・運営などプロデュース役となって継続的に様々なイベントを開催する。
- 地域とつながりたい関係人口候補者が、他の関係人口がワクワクしていることを感じ、自らもこの町に関与したいと感じる。

●イメージ



4.事業の実施体制とターゲット（2019年度）

●事業の実施体制

<p>● 横瀬町役場 まち経営課が全体を管理し、それぞれが活動しやすく調整を行うとともに、活動の取り組みを広報する。</p>	団体・組織名称	役割・責任
	官民連携「よこらぼ」担当	事業参加者の募集、相談ケア、他実施主体との連携・調整
	地域おこし協力隊	事業参加者の募集、相談ケア、他実施主体との連携・調整
	まちづくり任意団体「チーム898」	事業参加者の募集、現地活動アドバイス、活動協力、行政との連絡・調整
	既に「よこらぼ」の採択・実施者	事業参加者の相談ケア、活動アドバイス、活動協力
	「エリア898」	活動拠点場所

●事業のターゲット層

<p>● 自らチャレンジをしたいと思っている社会人や学生を主なターゲットとする。</p>	ターゲット層	ターゲット設定の理由（地域課題の解決にどうつながるか）
	横瀬町官民連携プラットフォーム（通称：よこらぼ）により行政の支援を受けて地域と一緒にチャレンジしたいと提案、採択となった者	自分のスキルで横瀬町から社会を良くしたい、地域課題を解決したいと思っている熱意のある者の新しいアイデアやチャレンジ精神を応援することが地域課題解決へのチャンスが高いと考えた。

5.事業の経過（2019年度）

●事業の経過

時期	取組内容	内容	工夫したこと	主な成果	問題となったこと、うまくいかなかったこと	気づき・感想、今後に向けた反省点
7月～	オープン&フレンドリースペース「エリア898」のPR	活動拠点となる「898」のチラシの作成、FBでの利用促進などを行った。	チラシは利用者からのフィードバックや利活用の実績など何度も作り変えた。	様々なイベントや企業向けに配付するなど、多くの方に知ってもらった。	「898」の運営方法も何度か変更したため、チラシ制作が追い付かなかった時期があった。	ネットの時代ではあるが、紙媒体も配付先に目で見てもらえて、話題に上がるが多かった。
7月～	官民連携事業「よこらぼ」のPR	町のチャレンジを応援する官民連携事業「よこらぼ」の応募件数を増やすためPRを行った。	「よこらぼ」の実績や効果を前面に打ち出し、チャレンジしやすい環境を伝えた。	応募件数24件と平均月3件の応募があった。	関係人口になり得る人もそうでない人も応募はできるので、採択をしてみないと分からなかった。	採択した方は、基本的に町とつながりが欲しいという、至って関係人口に近い人が多かった。
7月～	まちづくり任意団体とのミーティング	まちづくり任意団体と毎週ミーティングを行った。	日々変わっていく状況、イベントのやり方など、ほぼ、毎週ミーティングを行った。	ミーティングからの意見を多数実践したことにより、いい反響が多かった。	任意団体であり、結果、契約がしにくかった。	運営も役場だけではなく外部の目線をいれることが重要だと感じた。
12月～	「よこらぼ」TOKYOイベントの開催	毎月都内会場で、「よこらぼ」のPRを行った。	当町に来てもらうきっかけを作るため、ターゲットの都内でイベントを毎月行った。	参加者が12月に30人。1月に40人と増加傾向にある。	SNSでの発信がベースで、もともと町に興味がある人が多く、新規の応募が少なめ。	SNSだけではなく、情報の拠点となるWebサイトの有効性に気づいた。

5.事業の経過（2019年度）

●事業の経過

時期	取組内容	内容	工夫したこと	主な成果	問題となったこと、うまくいかなかったこと	気づき・感想、今後に向けた反省点
7月～ 毎月 (継続)	「はたらクラス」の開催	働き方、生き方を学ぶキャリア教育イベント。	都内などで活躍し、チャレンジする方から地域住民に語ってもらう。	毎月1人、講師として登壇してくれる方が、関係人口の候補となった。	特になし。	謝礼、交通費、宿泊費の支給なしで、関係性のみで引き受けてもらえ、お金ではないことが分かった。
7月・10月・1月 (継続)	「よこぜプレゼン部」の開催	社会で活躍し、チャレンジする学生が自分を紹介するプレゼンイベント。	学生がプレゼンすることで、地元の学生のほか、チャレンジしたい大人の参加が多かった。	学生のチャレンジを応援したい関係人口の候補者が毎回増える。	学生プレゼンターの交通費などの負担や新規顧客を増やす集まらなかった。	来年度、田んぼを借りて稲作をみんなですることになった。
1月・2月 (継続)	「横瀬ワンダ一学校」の開催	大手電機メーカーさんとPC・3Dプリンタ・カメラなどを使った学生向けイベント。	企業のCSV活動の導入としての位置付けた。	PCや3Dプリンタが使えたことで、イベント日以外でも講師との交流が生まれた。	2月のイベントは、子ども向けの行事が多くあり集客が伸びてない。	イベント参加者が少ないと講師のモチベーションにも影響するが、少人数の方が濃い関係が築ける。

6. 主な取組の内容（2019年度）

● ターゲットへのアプローチ

- 主なターゲット：民間企業及び民間企業に勤める、地方でチャレンジしたいと思っている方
- アプローチ方法（媒体等）：FBページ、チラシ、口コミでの各イベント情報の掲載及び官民連携「よこらぼ」PR
- 回数・数量：「エリア898」開催の様々なイベント25回以上
官民連携「よこらぼ」TOKYOイベントPR3回
- 発信者：まち経営課・まちづくり任意団体
- アプローチの留意点：イベントページを町公式FB、官民連携「よこらぼ」FBなど多くのシェア、コメントなどの拡散を意識した。



1月22日 <埼玉県横瀬町>よこらぼ東京イベント
町長と語ろう！

● 主な活動内容

<よこぜプレゼン部>

- 社会で活躍し、チャレンジする学生が自分を紹介するプレゼンイベント。
- 開催日：7月28日、10月20日、1月26日
- ターゲット：民間企業、自治体職員・運営側各回10名程度

<横瀬ワンダー学校>

- 大手電機メーカーさんとPC・3Dプリンタ・カメラなどを使った学生向けイベント。
- 開催日：1月25日、2月15日
- ターゲット：大手電機メーカーのボランティアを含む社員 5名程度

<はたらクラス>

- 都内、地元の各1名から働き方、生き方を地域住民に語ってもらうキャリア教育イベント。
- 開催日：毎月1回開催
- ターゲット：都内で活躍し、チャレンジしている人、毎月1名



7.結果とこれから

●2019年度（昨年度）

- 概ね、目指すべき形（898を中心とした学びのイベントなど）は達成でき、多くの方に横瀬町の取り組みについて関心を持ってもらうことができた。

●現状は？2020年度

- 新型コロナウイルス感染症拡大に合わせ、公の施設としてエリア898は利用中止や不特定多数のイベント縮小、地域外からの人の移動の自粛などの影響により、思うような取り組み・利活用ができなかった。
- しかしながら、ターゲットである、「よこらぼ」採択者は、現状でも増加しており、オンライン会議などにより、モチベーションを維持している状態である。
- さらに「はたらクラス」は、エリア898で感染防止対策を徹底したうえで、リアルでのイベントとオンラインを併用し、毎月1回の開催を再開している。

●これからについて

- 東京都からの近さをベースに作り込み、リアルな場所を中心とした関係人口施策を展開したため、今回のような移動自粛などがあると当町の場合は、かなり影響が大きい。
- 現状できることとしては、急速に進んだオンラインを活用して、リアルに会うことと同様の効果を生み出すことが必須。
- しかしながら、「よこらぼ」を続け4年間の実績、さらには、コロナ禍、働き方改革、ICT環境の整備などの社会的理由から、移住や2拠点居住を検討している方が増えてきた。（ただし、空き家登録が少なく、移住機会を逃している状況）
- いずれにしても、このような状況下を課題としてとらえ、「よこらぼ」でチャレンジする動きもあり、チャレンジし続ける環境は維持していく。

8.最後に

withコロナ時代であり、また正解が見えない社会のなか、課題山積の小さな町に、ワクワクしながらチャレンジする人を継続的に呼び込む仕組みを作り続け、行政としても時代の流れ、社会状況等を踏まえつつ、横瀬町自体も横瀬町らしいチャレンジをし続けていくことが重要。

横瀬町の今後の展開を見続けてください。
ご清聴ありがとうございました。

(ワクワクするチャレンジャー大募集!)